

2012年5月7日

牧紀男（京大）

## 第1回巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくり特別調査委員会議事録

日時：2012年5月7日（月）17:00－19:00

出席者：福和、菊地、松村、村上、佐土原、久田、塩原、大月、有賀、田辺、加藤、牧  
配布資料：

- ・第1回巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくり特別調査委員会議事案（福和提出）
- ・第2回巨大災害の軽減と回復力強いまちづくりタスクフォース議事録（案）
- ・WG設置申請書
- ・WG設置申請書「過大外力に対する建築と都市の性能WG」
- ・巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくり特別調査委員会「建築・地域・都市におけるエネルギー需給の再考WG資料」
- ・「津波④減災市街地設計」（有賀、加藤）
- ・「対応②+③」（大月）
- ・専門調査会最終報告他資料（福和）
- ・巨大災害の軽減と回復力強いまちづくり特別調査委員会予算内訳

### <議事>

#### 1. 自己紹介

#### 2. 前回議事録（案）の説明（資料）

原案通り承認

#### 3. 過大外力に対する建築と都市の性能WG設置申請書について（塩原）

- ・5月21日に第1回WGを予定（その後、月1回のペースで研究会を行い、10月を目処に作業結果をまとめる。
- ・壁谷澤さんは国総研へ移動、深井さんは国総研へ移動（法制等の専門家）
- ・様々な立場の人々の「安全」ということに対する認識の統一をはかることを目的とする。
  - －東日本大震災の前後で比較をして、資料のマトリックスを埋めるという作業に基づき、建築学会の進むべき方向性を明らかにする。
- ・都市の性能をどう扱うのか
  - －生活再建支援、ゴミ処理、公共施設といった建築領域について分析対象とする。
- ・レベル1、レベル2という言葉の持つ意味についても明確にしてほしい。
- ・M8.5を越えるとこれまでの経験式が使えなくなるという議論について→アテニューエーションカーブについて再検討する必要があるのでは。
- ・過大加荷重についてどう考えるのか→M9，直下型地震、竜巻についても検討する。被

害の広域性についても検討する。

- ・別のワーキングのメンバーの参加も求めたい。
- ・構造物の性能として、倒壊限界だけではなく機能継続も性能として求められているがどう考えるか→総合的に検討したい。
- ・内閣府の被害想定も踏まえ、どこまでを過大荷重を学会としてどう考えるのかについて明確にする必要がある。過大荷重をどう考えるのか（都市に重要度係数（集中係数、大都市係数）をかけるのか？）
- ・ネットワーク系（電力、サプライチェーン）、医療施設のステークホルダーを考慮する必要がある。
- ・津波を入れる。
- ・組み合わせ荷重（地震+火事+津波、同レベルでの地震が2回くる）についても検討する。

### 3. 長周期地震動等への対応と建築・エリアの即時対応WG（久田）

- ・WG設置申請書に基づき研究計画について説明、提言部会と共同で作業。
- ・委員会を2回開催済み、年6回を計画。
- ・構造本委員会の長周期地震動委員会の成果を上手く引き継いでいただきたい。
- ・叢書のようなものが出版できればと考えている。

### 4. 地域・都市におけるエネルギー需要の再考WG

- ・「東日本大震災に学ぶこれからの環境工学」にもとづいて叢書を執筆。ほとんど原稿は出来上がっている。提言部会と共同で作業。現状の構成にスマートハウス、スマートコミュニティを入れる。
- ・マクロなレベルで日本全体のミニマムなエネルギーレベル（照明、温熱）の試算をして、一般の人に分かるような形式で示してほしい。
- ・照明を切ることによる節電効果が大きい。
- ・50、60ヘルツの問題についても触れられることが望ましい。

### 5. 復興まちづくりと減災都市設計・計画研究提言WG（有賀）

- ・「津波④減災市街地設計」「津波⑤復興まちづくり」に基づき説明、提言部会と共同で作業。叢書を発刊することを想定。
- ・東日本大震災の復興プロセスのアーカイブを作って、事例分析から類型化を行いたい。
- ・④と⑤を上手く連携して、首都直下地震、東海・東南海・南海地震へと活かしていくことができれば良いと考える。
- ・大都市問題について検討してきた中林委員会の成果も踏まえて、検討を進める。
- ・漁村集落についても今後検討していきたいと考える。
- ・人口減少社会を見据えて20、30年後の姿を踏まえた提言としていただきたい。
- ・設計で想定する想定外力のあり方について整理をする必要がある。被害想定レベルについて合意するための材料を提供する必要がある。

## 6. 巨大災害時の住の確保と生活再建WG（大月）

- ・WG設置申請書、「対応②+③」に基づき説明。発災から復興までを連続的環境移行プロセスととらえ、横つなぎの建築計画という観点から検討を行う。
  - ・仮設住宅団地というコンセプト、復興住宅マスタープランがないのが問題。
  - ・時間軸、各建物のマトリックスをアウトプットとし、時間を繋ぐマネジメントについて検討する。
  - ・電子会議等、議論の進め方について考えていただきたい。
  - ・大規模災害時にどこまで「住」のレベルを下げられという質、量の問題について検討していただきたい。災害後の住戦略について検討してもらいたい。
  - ・管轄が違う施設間（縦割り）を崩すことが可能なツールの提言ができれば良い。通達を用意しておく？平時の準備が必要（制度、提言、シミュレーション）。
  - ・土地のマネジメント、権利の整理（空き家）の整理が必要。
  - ・日本全体では 700 万戸の空き家があり、被災者が移動できれば仮設住宅の建設は必要ないかもしれない。これを実現するには、マネジメントが大切。
  - ・仮設住宅にはテントという手段もある。
- ## 7. 委員会の運営について（福和）
- ・次回の委員会を建築学会大会終了の 10 月頃に実施。報告案について報告。
  - ・次年度の大会で 5 つのWGで発表、その後、各WGでとりまとめを行う。
  - ・国の動き（教訓整理、防災対策推進検討会議、中央防災会議の今後の検討予定、新たな震源域+津波+震度、消防審議会、東海・東南海・南海地震中部圏戦略会議）も踏まえて各WG
  - ・H25 年度大会PDについて 10 月委員会前に福和、菊地、牧で検討を行う。各WGの報告+各WGの主査によるPDが基本案。

## 7. 事務局から

- ・中林委員会の報告書を本委員会で配布。
- ・できるだけ旅費のかからない形式での開催をお願いしたい。
- ・叢書を作成するためには前年に刊行企画書・計画書を作成する必要あり。
- ・各WGで叢書の刊行についてのスケジュールの検討を行う。